

県土整備部の若手が考える 人口減少対策（子育て支援含む）

理想の未来づくり



若手勉強会 5期生

目次

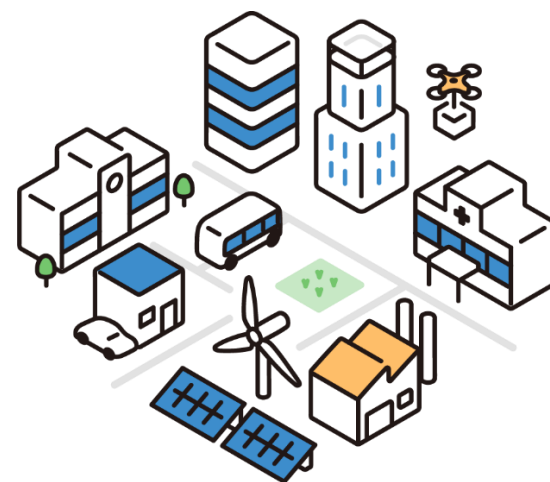
01 現状と理想

02 提言 1

03 提言 2

04 提言 3

05 まとめ



01 現状と理想

これから先、人口減少は進んでいく…

どんな三重県なら、住みたい・住み続けたいと思えるのか？

三重県に住んでいる若者としての不安や悩み



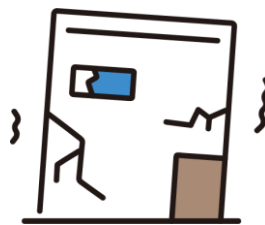
まちの活気に欠ける
生活利便性の弱体化

出会いがない



子育てへの不安

自然災害への不安
沿岸部の津波



未来を担う若手が考える

県土整備部としてできることは何か？



魅力あるまちづくりとは 持続可能なまちづくり

賑わいのあるまちに住みたい

空き家や既存施設の有効活用
公共交通機関の再編等による利便性向上
インフラを活用した賑わいの創出



出会いの創出

相談支援など出会いのサポート体制の強化
地域コミュニティの活性化
ライフスタイルの多様化支援



安心安全なまちに住みたい

河川、港湾施設のハード整備
地域の防災力をハード・ソフト両面で強化
情報伝達体制の整備・強化



子育て環境の整備

女性が働きやすい職場づくり
送迎保育ステーションなど、
就労を支援する環境整備
子どもの遊び場の確保



01 現状と理想

持続可能な

まちづくりを進めるには？

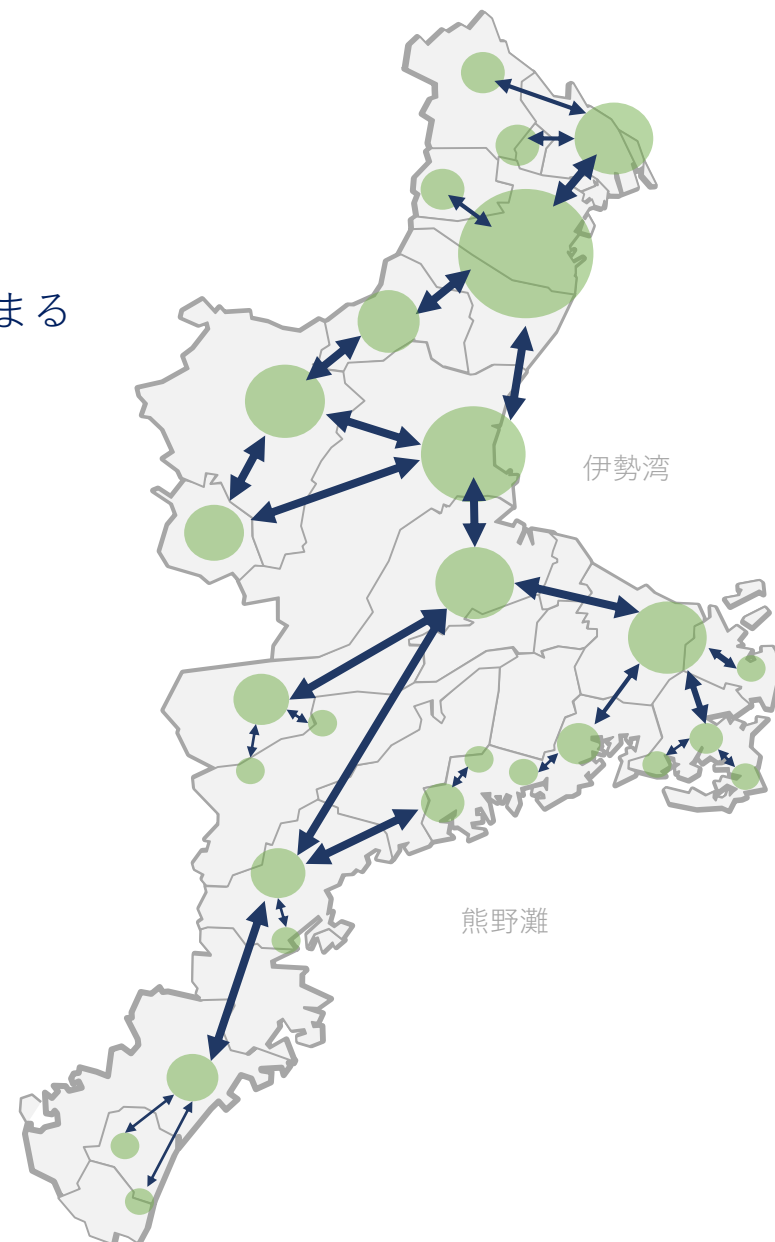
居住地の周辺に公共機関や医療施設、商業施設が集まる
公共交通での移動に不便を感じないエリアに暮らす

- ⇒ 各地域をつなぐ**交通網の再編・強化**
- ⇒ 地域の生活拠点周辺へ施設や居住地を誘導

持続可能な

まちを維持していくためには？

- ⇒ 人が集まるような、**賑わいを生み出す**
- ⇒ 将来のライフプランを想像できるまち
(子育てしやすく、老後も住みたい)



県土整備部としてできること

- 持続可能なまちづくりを進めるための基礎づくり
- 地域を活性化し、賑わいを生み出す
- 定住したくなるようなまちづくり



三重県の特徴と県土整備部をマッチング

地域の活性化

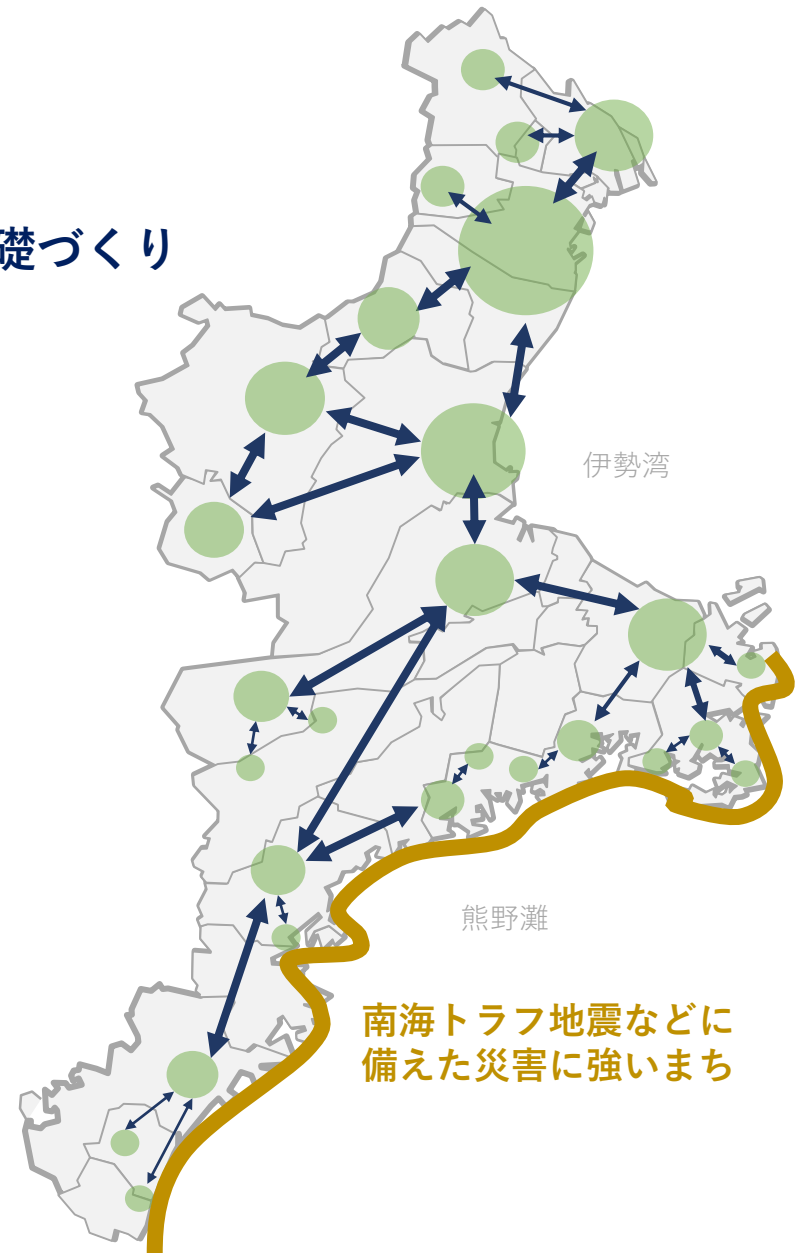
賑わいの創出

防災力の向上

沿岸部を強化

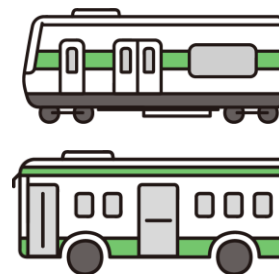


インフラ施設の
活用と多目的化



持続可能なまちづくりを進めるための基礎づくり

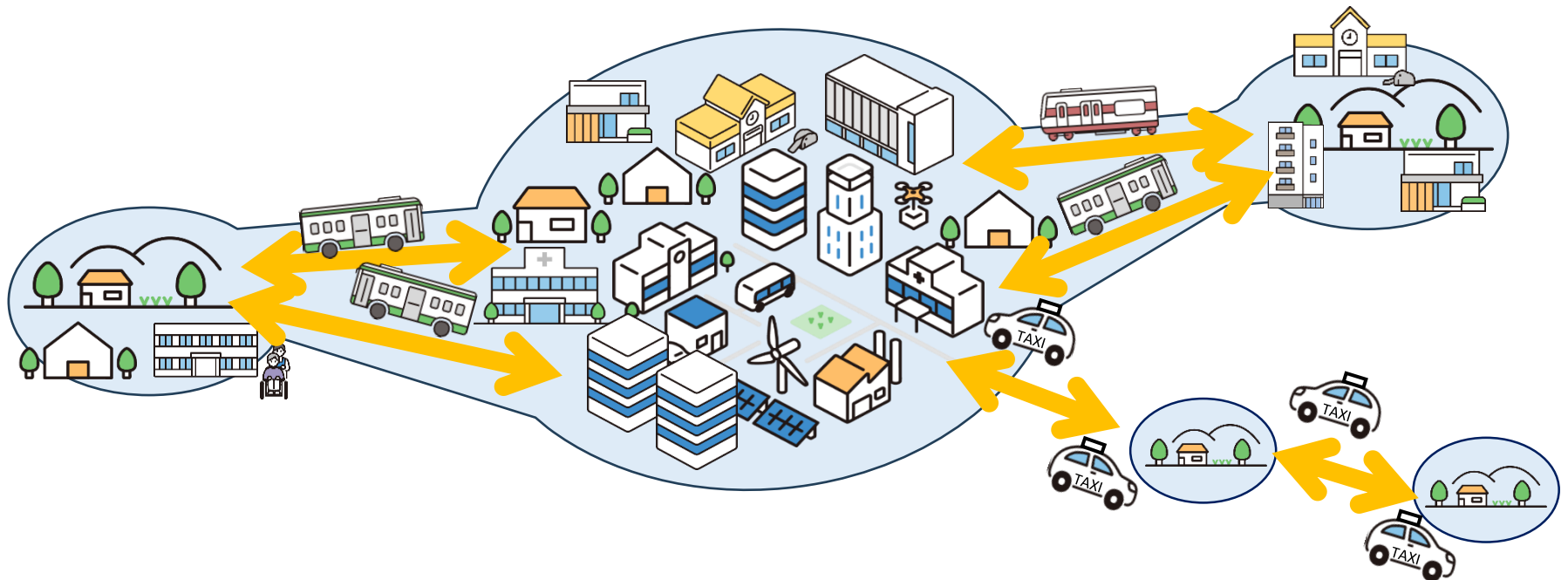
コンパクト × ネットワーク



コンパクト × ネットワーク = 持続可能なまち

- ・ 日常生活を営む身近なエリアに必要な機能が確保された地域生活拠点の誘導
- ・ 近隣の生活圏内における移動サービスの質の向上

この2つが連携したまちの構造を目指す



01

県主導で 広域的な方針を検討

地域の文化的・地理的特性を考慮し、都市計画区域マスタープランの改定時に関係市町と議論する場を設けるなど、既存会議体を有効活用する！

市町向けの勉強会を実施し、支援体制の強化を図る。

02

若手による勉強会の実施

都市政策・交通政策両者に精通した人材育成、医療・福祉・子育て・企業誘致など施設立地に関わる各担当者や学識経験者が三重県を俯瞰して検討！

やる気のある若手（県・各市町職員など）の勉強の場に。

**賑わいの創出、子育て環境の整備には、
まちづくりの基礎的な計画と密接に関係している**



持続可能なまちを維持するために、地域を活性化

賑わい × 出会い



賑わい × 出会い = インフラ合コン



生成AIによるイメージ画像

公共土木施設を活用し
多種多様な出会いの場へと

道路や河川空間、公園などの
公共空間を活用し、イベントを開催。
賑わい創出の取り組みは、友人や家族
単位で楽しむコンテンツ。



中心市街地エリアを一体的に活用

まちなかテラス

大垣駅通りなどの
エリア一体を「歩行者利便増進道路」に指定、
歩道上でのテラス席の設置や物品販売を支援



歩行者利便増進道路：道路管理者が指定するもので、占用許可が簡単かつ占用期間が長期化するほこみち制度
：道路を「通行」以外の目的で柔軟に利用できるようにする制度のこと



地域特性を生かした活用

水都大垣再生プロジェクト

市の象徴である「水」の魅力を最大限に引き出し、
より活気あふれる街へと生まれ変わらせるためのプロジェクト



令和5年 12月 かわまち大賞受賞

4
つ
の
柱

水都を感じるまちづくり
水都を楽しむにぎわいづくり
水都を生かすものづくり
水都を引き継ぐ歴史づくり

水都を楽しむにぎわいづくり

水門川舟下り
かわまちテラス
特産品の木柵を使った「水辺で乾杯」
ブルーライトアップ

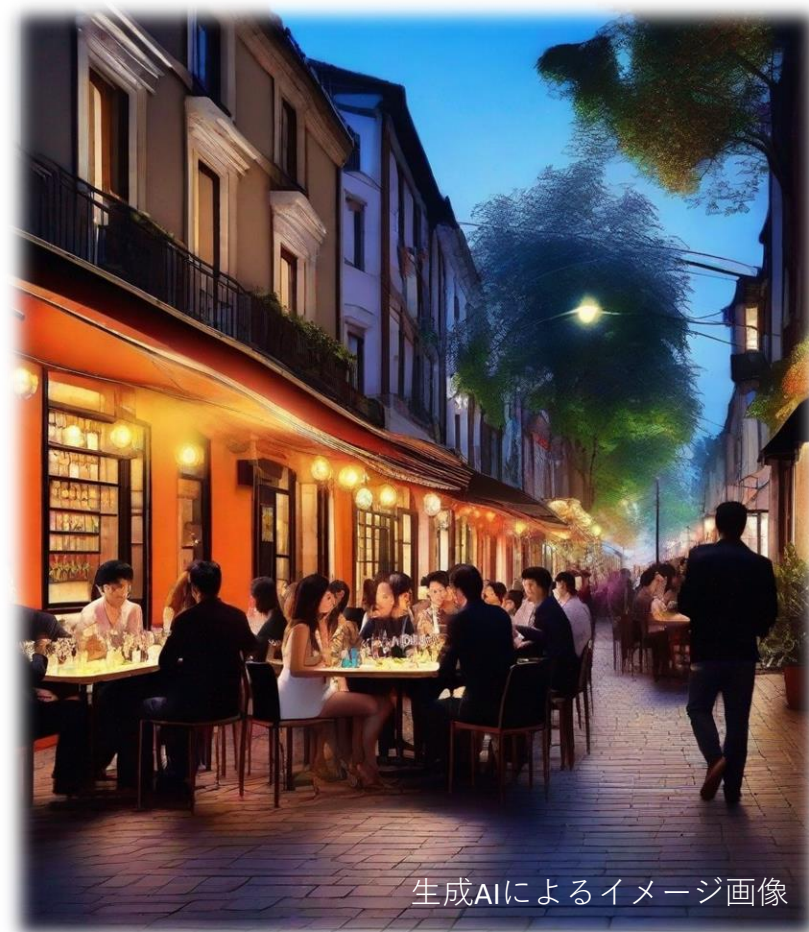
新たな人と人をつなぐ場へ

合コンにとらわれず、
友人同士や家族で楽しむ空間のほか
地域間の繋がりにも寄与することで
地域活性化の足掛かりにもなる

進めていくと



学生と経営者など
新たな繋がりによる化学反応が生まれ、
三重県を知る機会に、移住へのきっかけ
にも繋がるのでは？



生成AIによるイメージ画像

誰もが将来を想像でき、安心・安全でずっと住み続けたいくなる三重県へ

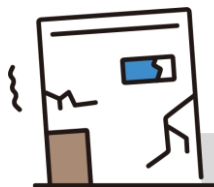
防災 × 遊び場



>>> それぞれの課題とは？

防災施設の課題

建設費用が
高い



維持管理
コスト

防災意識





静岡県 伊豆市「松原公園津波避難複合施設」

平時は観光施設として使用されている。
土産物店やカフェ、レストラン、展望台を備える。



公園利用者の声



子供が小さいので
公園に清潔なトイレや
キッズトイレが欲しい



カフェなど
飲食施設があると嬉しい



休憩できるように
日よけスペースがあると
魅力的



アスレチック遊具や
長い滑り台で遊びたい

04 提言3

他県での事例



千葉県 船橋市「ふなばしアンデルセン公園」



防災 × 遊び場 = 津波避難タワー公園



防災 × 遊び場 = 津波避難タワー公園

それぞれの課題を解消する施設

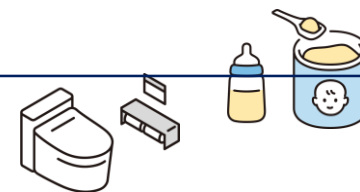
防災施設としてのメリット

多目的化による費用対効果の上昇
防災意識の向上
心理的負担を軽減



公園としてのメリット

天候に左右されない・日陰
立体を生かした遊具
トイレや搾乳室の設置



身近に防災を取り入れ、安心安全なまちへ

公園だけでなく、夜景スポットなど賑わいの場所として利用できる。

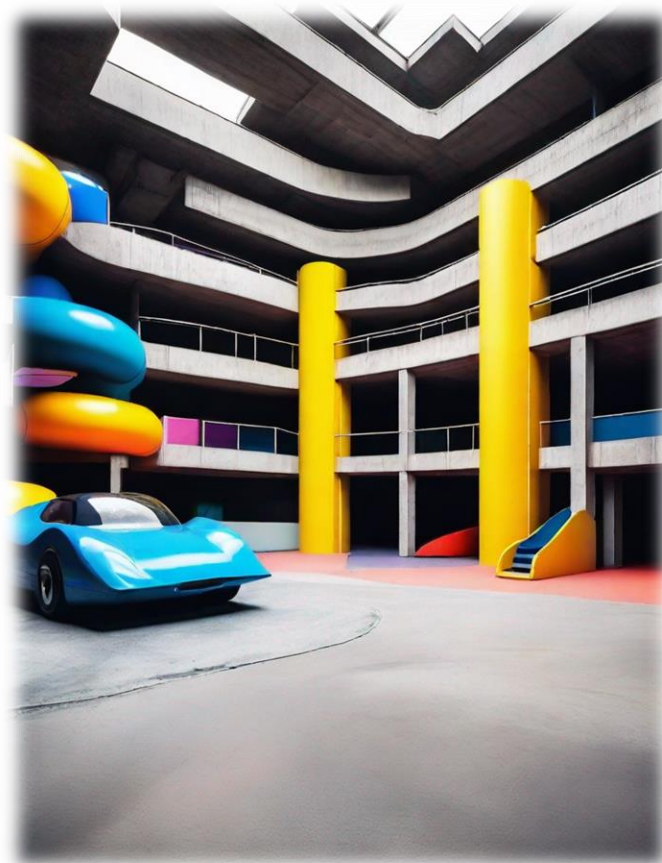
新たな観光地となれば
地域活性化にも寄与する

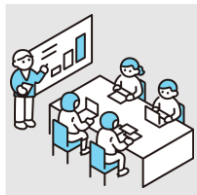
進めていくと



多目的に防災施設を活用することで
賑わいと防災意識が向上

安心感のある地域として根付き
住み続けたいと思えるようになるのでは？

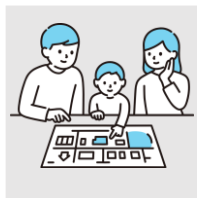




持続可能なまちづくりの追求を



新たな人と人をつなぐ場の創出



防災施設をより身近に